

入選

小さな親切

中国 広州日本人学校 中学部 1年 橋下 空良

親切心。それは人として生きていくために大切なことの一つだと思う。これは、中国に来て強く実感したことである。「中国」と聞いてどのようなイメージを持つだろう。自己中、不清潔、不親切等の悪いイメージを持つ人が多いだろう。僕も中国に来る前はそう思い込んでいた。しかし、実際中国に来てその考えは180度変わった。

僕がいちばん心に残っていることは、忘れもしない中国で初めて地下鉄に乗ったときだ。中国の地下鉄は、日本と違い、どの時間帯に乗っても日本で言う通勤ラッシュの状態になっている。そんな中、遠くに座っていたおばあちゃんが、わざわざ僕を呼んで席をゆずってくれた。僕はそのときは背が低く、人混みにつぶされそうだったので、そのことはとてもうれしく、とても感激した。

それだけではない。僕がバスや地下鉄に乗ると、たびたび見知らぬ人が席をゆずってくれる。僕だけではなく、小さな子どもやお年寄りがバスや地下鉄に乗ると、席をゆずってもらっている光景をよく目にする。

そして、驚くことは、日本ではあまり席をゆずらない若いお兄さん、お姉さんも、ここ中国ではあたりまえのように席をゆずっている。そして、ゆずってもらった人たちは、笑顔で感謝の言葉を言ったり、そこから、一度も会ったことのない人たちの会話が生まれるきっかけになったり、その場の空気がとても温かい空気になったり、見ている人たちまでもがほっと和むような気持ちになる。

中学生になった僕は、席をゆずられる側ではなく、席をゆずる側になることを心がけている。この前、僕は一人のおばあちゃんに席をゆずった。そのおばあちゃんはとても喜び、僕が降りるまで、ずっと話しかけてくれた。そしてなんと最後には、キャンディーもくれたのだ。席をゆずった僕もうれしかった。

親切という行為は、誰にでもできる、人を幸せにする方法だと僕は思う。しかし、その行為をするには、とても勇気が必要だと僕は思う。ときにはタイミングが合わず言えなくなってしまうことや、また、はずかしくて言えなくなってしまうときがある。しかし、中国の人々はみんな前向きに生きていて、このことは日本の人々も見習うともっとよい社会になっていくと思う。こういった親切がたくさん生まれる社会が目指すべき社会なのではないのかと僕は感じている。